

1

特集

埼玉大学 × 東洋大学 包括連携協定で未来を拓く

 Vol.41
 November
 2024

—理工系女子育成と地域貢献の新たな一歩—

埼玉大学と東洋大学は、教育、研究、地域貢献、産学官金連携の各方面にわたって広く協力し、理工系女子育成の強化を目指した体制づくりや、共同利用による研究施設の有効活用により社会への貢献に寄与することを目的とした包括協定を9月17日(火)に締結しました。

両校あわせて1,200名を超える研究者の専門知識と経験を活かし、多様な分野での融合研究の推進によって、世界が直面する多くの課題への貢献を目指します。また、埼玉大学と東洋大学川越・朝霞キャンパスの地理的利点を生かし、埼玉県的女性研究者と技術者が活躍する場の提供や、理系女子の育成をサポートするなど、埼玉県の多様性の推進や、施設の共同利用等を通じ、日本から世界に向けた教育・研究交流の促進を図ります。



▲協定書を披露する坂井貴文学長(左)と東洋大学 矢口悦子学長(右)

【包括連携協定による主な取組み】

- 研究施設及び研究機器の共同利用
- 「彩の国女性研究者・技術者ネットワーク」の強化
- 「理工系の豊かなイメージと多様な未来を!彩の国・理工系進路選択エンカレッジプログラム」を共同実施
- その他の事項
 - ・FD(ファカルティ・ディベロップメント)^{※1}、SD(スタッフ・ディベロップメント)^{※2} 研修の共同開催、相互参加の実施
 - ・学生交流や課外活動の交流
 - ・図書館の相互利用
 - ・教職員の派遣や交流等

※1 教育の質を改善・向上させるための取り組み ※2 大学教職員の能力開発による教育改善の取り組み

2 学生 埼大生の情熱を応援! 「チャレンジ応援プロジェクト」スタート

「チャレンジ応援プロジェクト」は、学生のチャレンジという精神を応援するプロジェクトで、特に大学や地域・社会に貢献など学生が積極的に取り組むプロジェクトを通して、自主性、積極性、創造性を高め、人間的に成長を促すことを目的としたプログラムです。

今年度、初の試みのこのプロジェクトは、個人申請6件、グループ申請6件の計12件の応募があり、一次選考の書類審査と二次選考のヒアリング審査を行い、3件が採択されました。

【採択プロジェクト】

●地域貢献部門(個人申請)

●理工学研究科 博士前期課程 小山 駿さん

●標題: マチマキプロジェクト

～埼玉県飯能市における「景観まちづくり」の実践～

飯能地域の豊かな森林資源をつかって地域のみなさんと一緒に薪をつくり、薪をまちなかでデザインしながら乾燥させることで、飯能らしいまちなみを生み出すプロジェクトです。本プロジェクトは、『第17回輝け!飯能プランニングコンテスト』学生部門最優秀賞を受賞した企画の一部を実践しており、これまでに7月13日(土)・14日(日)の『飯能夏祭り』で、薪を使った滞留空間の創出や薪割り体験などを実施しました。



●自由部門(グループ申請)

●教養学部 教養学科 ソーズビーキャメロンさん、他2名(グループ応募)

●標題: PARK BALLET 「見る者を限定しない」バレエ披露

バレエ作品を切り抜き、通りすがりの誰もが理解できるよう大衆へ披露するプロジェクトです。コンセプトは「見る者を限定しない」とし、武蔵野美術大学生と連携し進めていきます。今回の応援プロジェクトでは主に、活動時に使用している移動式劇場「TINYTHEATER」のリニューアルに注力し、パフォーマンス環境を整え活動を促進していく狙いです。



●自由部門(グループ申請)

●教育学部 教育実践学専修 鹿島 大貴さん

●標題: 「国境を超えた文化祭

TREACH Comprehensive Fest」

カンボジアの学校や孤児院と提携して運動会、音楽祭、アートイベントなどを総合的に入れ込んだイベントを主催していくことによって、現地の方々に対して0からイベントを企画し運営できる機会を提供し、家と学校との往復のライフスタイルとなってしまう現地の子どもたちを中心として非認知能力向上や企画推進能力の向上を目的としたプロジェクトです。

3 学生 歴史ある東京学生映画祭で快挙! 埼大生の自主制作ドキュメンタリーが二冠

工学部電気電子物理工学科の菅原壘翔さんが制作したドキュメンタリー映画『パパママ卒業』が、第35回東京学生映画祭(8月16日(金)～18日(日)開催)にて、実写長編部門審査員特別賞と観客賞を受賞しました。

第35回東京学生映画祭は、日本で最も長い歴史を誇る国内最大級の学生映画祭です。全国から集まった学生作品の中から、厳正な審査を経てグランプリを決定するコンペティション形式で行われ、菅原さんの作品が見事に評価されました。『パパママ卒業』は、親への呼び方を「パパママ」から卒業する過程を描いたドキュメンタリーで、多くの観客と審査員の心を掴みました。



▲授賞式の様子

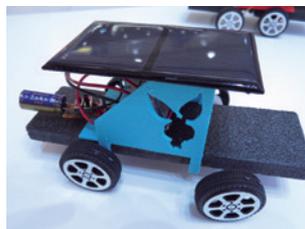


▲制作の様子

4 産学官 子どもたちが学ぶ環境問題 —ソーラーカー製作を通じた脱炭素教育を地域共同で開催—

8月31日(土)、イオンモール浦和美園で開催された「イオンモール浦和美園から広がる環境の輪～環境について考えてみませんか?」に脱炭素先行地域の共同提案者であるさいたま市、芝浦工業大学、東京電力パワーグリッド株式会社埼玉総支社と共に参加し、埼玉大学社会変革研究センター脱炭素推進部門における取り組みや研究内容をパネルで紹介するとともに、小学生を対象としたワークショップ「ソーラーカーを作ろう!」を開催しました。

ワークショップでは、理工学研究科の山納康教授、長谷川有真准教授及び大学院生と工学部生が講師となり、17組の小学生とその保護者を対象として、「地球温暖化」「温室効果ガス」「脱炭素」などの説明や、本学の脱炭素に向けた取組を紹介した後、小さいソーラーパネルを搭載した車を組み立て、走らせました。参加した子ども達が、自分で組み立てたソーラーカーをLEDライトで充電し、専用コースで走らせ、大盛況のイベントとなりました。「自然エネルギーで車を走らせる」という経験を通じ、子ども達が環境問題やSDGsに少しでも関心を寄せると期待しています。



▲ソーラーカー作りの様子

埼玉大学マスコットキャラクターメリンちゃんがデザインされたソーラーカー ▶ (材料の一部は本学総合技術支援センターの協力によるお手製)

留学への期待と決意 —特別教育プログラム「Global Youth」壮行会開催—

7月23日(火)、特別教育プログラム「Global Youth」参加学生で、2024年度に海外派遣留学に出発する13名の壮行会を行いました。

「Global Youth」は、留学とインターンシップが必須となっており、学部の学修と両立しながら自分に合ったタイミングで実施します。2024年度の留学先は、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、オランダ、デンマーク、インドネシア、タイ、台湾、アメリカと、学生がそれぞれの専門分野について学べる大学を選び、この秋から順次出発します。

当日は、坂井学長をはじめ、野中進理事(教学・学生担当)・副学長、市橋秀夫副学長(国際・グローバル教育担当)、山田真弓准教授(基盤教育研究センター・「Global Youth」担当)、特別教育プログラム運営委員の田代信教授(大学院理工学研究科)、アドリーナ イーデイズ エドワース ヴァツィンガ准教授(英語教育開発センター)など、多くの関係教職員が参加しました。

坂井学長は、「留学先では大変なことにぜひ向き合ってください。大変な時こそ成長するチャンスである」と学生を勇気づける励ましの言葉を送りました。



▲派遣学生との記念撮影

未来屋書店とのコラボ企画! 子どもたちに本の楽しさを伝える

—埼玉大学生広報サポーター活動報告—

6月15日(土)、埼玉大学生広報サポーターが株式会社未来屋書店と野店(イオンモールと野内)と連携し、「出張!!絵本よみきかせ会」を開催しました。

本イベントでは、地域の子供達に本の楽しさや魅力を伝え、地域貢献を果たすことを目的としています。当日は、各メンバーが自ら選んだ絵本の読み聞かせを行ったほか、オリジナルの手遊びや体を使った遊びなども交えました。イベントは午前と午後の2回に分けて実施し、どちらの回も多くの皆さまに参加いただき、大変な賑わいとなりました。



▲よみきかせの様子



▲埼玉大生が選ぶ絵本コーナー

未来の科学者を育てる! 「1日大学生」プログラム

8月3日(土)、科学者の育成プログラムの1つである「1日大学生」を開催しました。科学者の育成プログラムとは、大学院理工学研究科が提供するサイエンスプログラムです。主に小学5年生～中学生に体験を通した専門的な学習機会を提供することによって、科学に関する好奇心・学習意欲・能力の成長を促し、開花させることを目指しています。

今回開催した「1日大学生」は、全ての分野を幅広く学び、興味を広げるためのプログラムです。このプログラムには、たくさんの埼玉大生が運営や実習の補助として関わっています。物理学実習の補助を担当する学生は、「興味を広げ、好奇心を引き出してあげられるようにサポートしたい」と意気込みを語ってくれました。

卒業式では、永澤明埼玉大学名誉教授より受講生全員に向け、「今日の体験で、科学や研究のおもしろさが分かったと思います。ここで終わるのではなく、これからも様々な経験をして、世界を背負う科学者や技術者になってください」とエールが送られました。そして、実習を担当した講師より、参加者全員に卒業証書が授与されました。

「1日大学生」での経験を通して、受講生の皆さんに芽生えた「科学者の芽」が大きく成長できるよう、これからも様々なプログラムを提供します。



▲実験の様子

私募債による寄贈品贈呈式及び感謝状贈呈式を挙げる

7月4日(木)、本学と株式会社埼玉りそな銀行、サンケン電気株式会社は、本学にて「寄贈型CSR私募債」による寄贈品贈呈式および感謝状贈呈式を開催しました。

サンケン電気が埼玉りそな銀行の「寄贈型CSR私募債」による私募債発行を行い、寄贈品の寄贈先として本学を指定いただきました。それを受け、埼玉りそな銀行より収受した手数料の一部について、本学への寄附の申し出があったものです。

これにより、総合研究棟のホールに、プロジェクター、音響設備、およびオンライン配信設備が整備され、セミナーの開催が可能になりました。さらに同研究棟のシアター教室に、オンライン配信設備が整備されたことで、シアター教室で開催されるセミナーや講義を外部へ発信することも容易となりました。

贈呈式では、埼玉りそな銀行 福岡総社長より本学の坂井学長へ寄贈品目録が贈呈され、これを受け坂井学長から、埼玉りそな銀行、サンケン電気に対して感謝状を贈呈しました。



▲(左から)株式会社埼玉りそな銀行 福岡総社長、本学 坂井学長、サンケン電気株式会社 高橋広社長

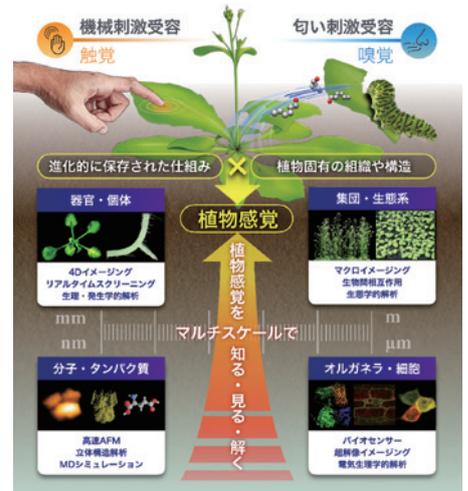
9
特集

国内トップクラスの植物研究拠点へ!

令和6年度 戦略的創造研究推進事業ERATOに豊田正嗣教授の研究が採択

大学院理工学研究科 豊田正嗣教授を研究総括とするグループの提案が、科学技術振興機構(JST)による戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究(Exploratory Research for Advanced Technology、以下 ERATO)の令和6年度新規研究総括および研究領域に見事採択されました。本学でのERATO 採択は、初の快挙となります。

ERATO は、大規模な研究費を使い、分野融合や新しいアプローチで挑戦的な基礎研究を推進し、科学技術イノベーションの創出を目指すプログラムで、研究総括が複数分野の研究者を集め、プロジェクトを指揮し、新しい研究分野の開拓に取り組む点が特徴です。今回の選考では、推薦や JST の独自調査で得た 9,071 名の候補者母集団から、厳正な絞り込みが行われ、そのうち 31 名に研究構想提案が依頼されました。その結果提出された 22 件について審査の結果、最終的に 3 件の研究総括と研究領域が決定されました。豊田教授の研究は、独創的かつ挑戦的な研究であり、これまでのオジギソウの研究実績などから総括にふさわしいと評価され、今回の採択に至りました。



持続可能性を高める“ウォーカーブル”なまちづくり実現のために

人文社会科学研究科 内田 奈芳美 教授

本学Webサイト内で閲覧できるオンラインマガジン「Frontiers of SU Research」では、本学の教員が手掛ける注目の研究内容を定期的に紹介しています。

現在公開中の最新記事では、人文社会科学研究科の内田奈芳美教授のインタビューの内容をお届けしています。持続可能な都市をつくるためには必要不可欠な要素だという“ウォーカーブル”なまちづくりをテーマにした研究内容はもちろん、大宮駅周辺のまちづくりなど、これまでの取り組みについても語っていただきました。ぜひご覧ください。

<https://www.saitama-u.ac.jp/research/frontiers/column04/>



埼玉大学基金室より 埼玉大学リサイクル募金 きしゃぼん のご案内

いつも埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。

今回は、埼玉大学リサイクル募金のご紹介をさせていただきます。本募金は皆様から読み終えた本・DVD、ブランド品等をご提供いただき、その査定換金額を埼玉大学基金に寄附する取り組みです。寄附金は、大学図書館の蔵書の充実に活用させていただいております。どなたでもお申し込みいただけます。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



※その他、商品券、スマホ、楽器、骨董品等、まずはご相談ください。

(WEB受付) 24時間・365日



埼玉大学リサイクル募金

www.kishapon.com/saitama-u/



(電話受付) 9時～18時



0120-29-7000

「埼玉大学への寄付」とお伝えください

◆埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和6年9月末の状況 **720,531,054円**

うちリサイクル募金 きしゃぼん によるご寄附 **1,577,806円**

